

上越ケーブルビジョン
平成30年度 第1回番組審議会
議事録

日時:平成30年9月18日(火)14:00~15:00

場所:JCV2F 会議室

出席者 審議委員表記順:会長、副会長、委員(五十音順)

○直原 幹 会長 ○池田弘 副会長 ○上野 迪音 委員
○小林 美佐子 委員 ○斉京 貴子 委員 ○佐藤 隆義 委員

(上越ケーブルビジョン)

○放送担当取締役 植木 悦
○放送部 部長 福嶋良章
○放送部 放送課 課長 佐藤康司
○放送部 放送課 課長 沢田真紀

1. 開会

2. 挨拶 放送担当取締役 植木

3. 放送番組審議会進行内容説明 資料にて

4. 会長、副会長挨拶

5. 議事

(1) レギュラー番組について

① ニュースLiNK 謙信公祭に向けたシリーズ「のろし上げ団体紹介」

(佐藤)祭りの開催に合わせ4ヶ所を紹介。

もともと特番では謙信公祭の合戦や行列を中継しているが、
日の目の当たらない団体も取り上げてもらいたいという市からの要望に応える形。

20団体があり4年計画で毎年取り上げている。

今年が3年目で来年も続く予定。全ての団体の取材が終わった段階で
一つの番組にする計画も。教育現場等でも活用してもらえたら。

スタッフも一緒に山に登り汗をかいて取材している。

番組のコンセプトである地域に寄り添うことを大切に、見えない部分もしっかり
紹介していきたい。

② すまいる one 「ラーメン特集」

(佐藤)視聴者からの意見も取り入れながらスタッフがテーマを設定。

ほかの媒体でも紹介されているため構成が難しいが、地域のラーメンファンに

届けたいという思いで取材。

生活情報番組というコンセプトに基づき、家でもプロの技を楽しめるような工夫も盛り込み制作している。

③ 災害放送について

佐藤) 今年夏は夏の台風の際もこの地域には大きな被害はなかったが、

ニュースの中で天気情報を伝え、警戒を呼び掛けた。

気象予報士が電話出演し、今後の天気や予防対策を解説。

このほか、8月の豪雨の際は、一人が市役所の対策室に詰め情報を集めて

その情報を基に日中に取材をして放送した。

おはよう上越でも同様に、気象予報士が風や天気の状況を解説し

警戒を呼び掛けた。

気象予報会社からは昼と夕方に天気情報のデータを入手し番組に反映している。

部内でも毎週チームごとに、マニュアルを見なくても番組が立ち上げられるように

訓練を行い、災害放送に備えている。

④ おじゃまします！みんなの学校

佐藤) 作りは非常にシンプルであり、ナレーションもごくわずか。

子どもたちの自然な姿を取材している。

学校で行われている活動は、ニュースではわずかな時間しか紹介できないが

長尺で紹介することにより、保護者が授業参観以外で子供たちの様子を

知ることができる。

教師が他の学校の取り組みを参考にしているとの声も聞かれる。

特徴ある活動に限らず子供たちの日常を切り抜き紹介している。

⑤ NEXT

佐藤) 東京事務所のスタッフが制作し、月に一度更新。

様々な業種の方を取り上げられるのがこの番組の特徴。

インターネットでも配信しているので、全国の方にも広く見ていただける。

地元出身者の頑張る姿・職業観を、教育の分野でも使ってもらえたら。

(2) 下半期の特別番組について

出来るだけ多くの行事を取り上げようと、中継や収録以外に15分番組も制作している。

上半期では、吉川区の“やったれ祭り”や妙高市の“火祭り”も制作。

地域に根差し継承されている祭りを知ってもらいたいという思いがある。

10月に開催される“花ロード”は15分番組の予定。
100km マラソンとコシヒカリマラソンは同日の午前と午後に分けて中継を行う。
SAKE まつりも中継。人気イベントのため今年は放送尺を2時間に拡大する。
妙高市の子供たちの野球大会や市長選挙も中継。
他局との連携で長野市の恵比寿公煙火大会も中継で届ける。

(3) その他

「うみがたり OPEN の生中継」
地元以上に長野県からの反響が大きく、配信依頼が多かった。
長野県では再放送を行った局もある。
20年以上撮りためた映像を使い懐かしい場面も紹介できた。
魚をテーマに活躍している芸人さんをゲストに迎えて進行。
地元の小学生を招き歌やダンスを披露してもらった場面も設けた。

池田副会長) 謙信公祭ではだいたいが派手な場面を目にしているが、
地域で地味な作業で保全している人たちをクローズアップすれば、やる気にもつながる。
これからもどんどん取り上げてほしい。

佐藤委員) 気象番組では全国版のテレビで取り上げるのは被害のひどそうな場所だけ。
地元のことを詳しく伝えてもらえるとありがたい。
NEXT は、東京で活躍している人たちの姿を知り、刺激になる。

小林委員) リポーター、構成ともに全国版の番組に引けをとらないクオリティだと思う。
また、情報を色々な角度から捉えていて良い。

上野委員) NEXT も興味深い。地域のお祭りを、よりローカルに取り上げる意義は
強く感じているし良いと思うが、逆に言うと 市民のニーズをどうやって
把握しているのか。また視聴者の意見をどのように吸い上げ番組制作に
反映しているのか。獲得しなければいけないお客さんの件数もあるはず。
視聴率を拾い上げて反映しているのか知りたい。

佐藤) 直接的な視聴率をとるのはシステマ的に難しいが、テレビがインターネットに
接続しているお宅は接触率がとれる。どの時間にテレビをつけたかが数値で分る。
併せて、テレビの情報はタウン情報で配信しているので、そのアクセス数も
参考にしている。

- 齋京委員) 学校の先生によると加入していない家庭が多く、授業中に先生が DVD を見せている学校もあるとのこと。
JCV を視聴できない子供たちが多いのであれば、番組を DVD にダビングして配り加入のきっかけにしては？
- 佐藤) 現在は、各エリアにチラシを配り営業中心に告知している
加入率も地域により異なる。
児童、生徒のプライバシー問題もあり、映像を直接的に使い加入営業に結び付ける事は厳しい現状。
- 上野委員) 情報の飢餓状態も、売方からすれば良い状態なのではないか。
- 福嶋) 地域によって加入率の高い、低いはあるが、新規開局時のエリアには JCV の放送に期待が寄せられる。特に学校の番組が加入のきっかけになることも多い。
いただいたご意見を参考に、販促の仕方も社内で協議したい。
以前から PR が足りないのご指摘もあり、自社の TV・FM・NET・番組ガイド紙を活用して番組告知の強化を引き続き実施して行きたいと考える。
今以上に、いろいろな機関、行政、企業などとの協力なども視野に入れ、地域だけにとどまらず、サービス提供エリア外にも情報の配信を行きたい。
例えば、NEXT の様な地域の企業のコンテンツも外部に発信していきたい。
局地的な豪雨の時はテレビ・ネットを含めすべての媒体で接触率が多い。
避難指示が出た時など瞬間的にアクセス数が上がり数字は計り知れない。
緊急情報が発令された時にいち早く対応できるかを考えて取り組んでいる。
- 直原会長) 評価…地域に寄り添う番組という趣旨に基づいた制作が行われている。
要望…番組を制作した後のフィードバック 活用の仕方を検討してほしい。

6 閉会